

小口径管路の非開削建設技術

“新たな領域を開く推進工法と支える測量技術”



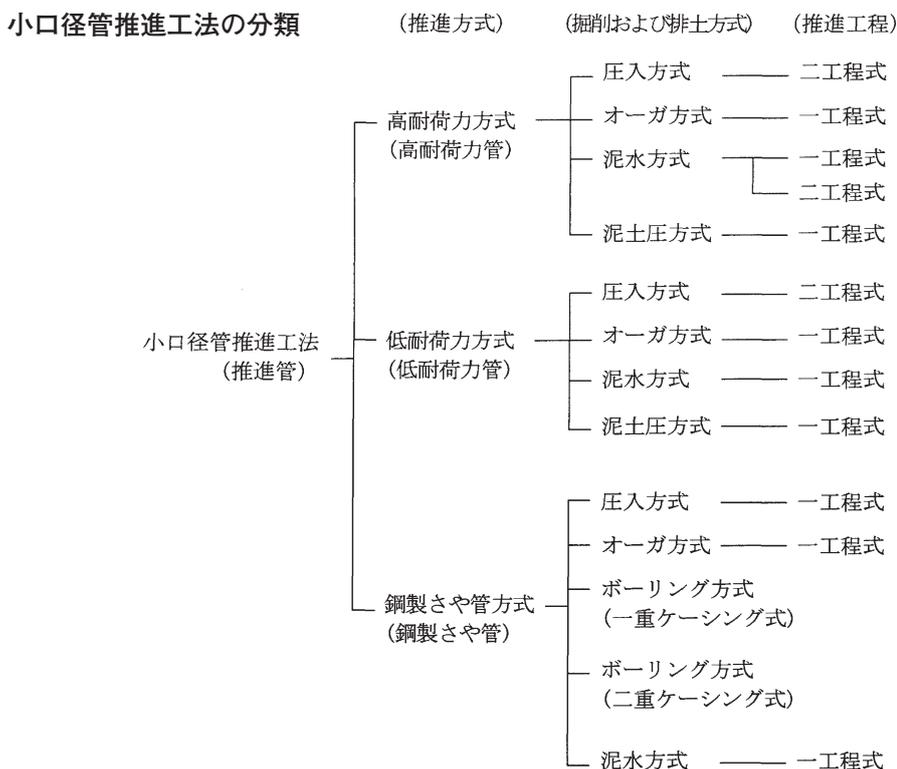
黒岩 正信
 KUROIWA Masanobu
 本誌編集企画小委員長

小口径管路とは、管路口径φ200mm以上で人の管内作業が禁止されているφ800mm未満のものを言います。本誌では、この小口径管路を非開削で建設するのに貢献できる小口径管推進工法とそれを支える測量技術などを特集します。

小口径管推進工法は、道路を掘る範囲を最小限に抑えることができるため、建設発生残土が抑えられるとともに、騒音振動、交通遮断などの社会生活への影響、地球環境への影響も小さくなります。そのため、

約35年前に産声を上げた小口径管推進工法は、この業界に携わる方々が次々と課題を克服する技術を開発し、ライフラインの各分野で活躍しています。

小口径管推進工法は、小口径管先導体以小口径推進管又は誘導管を接続し、発進立坑から遠隔操作により推進管を埋設する工法であり、使用する推進管種により、高耐荷力方式、低耐荷力方式、鋼製さや管方式の3方式に大別され、さらに掘削および排土方式、管の埋設方法により細分類されています。工法の分類は下記のとおりです。



出典：(社)日本下水道管渠推進技術協会『推進工法体系 I 推進工法技術編』2010年